

第2号様式（第3関係）

令和5年度春日井市民病院事業評価委員会議事録

1 開催日時 令和5年10月5日（木）午後3時～午後4時

2 開催場所 春日井市民病院3階 講堂

3 出席者

【会長】	春日井市薬剤師会	会長	林	きよみ
【副会長】	春日井市老人クラブ連合会	会長	稲垣	一義
【委員】	春日井市子ども会育成連絡協議会	会長	小出	修
	春日井市医師会	理事	林	浩一
	春日井市婦人会協議会	副会長	後藤	純子
	税理士		安藤	宣貴
	春日井市健康福祉部	部長	神戸	洋史

【事務局】	春日井市民病院	院長	成瀬	友彦
		看護局長	根岸	かほり
		事務局長	渡辺	寛
		管理課長	橋本	健
		管理課主幹	富田	雅子
		医事課長	松浦	武幸
		管理課長補佐	服部	勉
		管理課長補佐	春日井	秀和
		管理課長補佐	平岩	正行
		医事課長補佐	越	統靖
		医事課長補佐	嘉瀬	久美子
		管理課経営企画担当主査	亀谷	信義

4 傍聴者 なし

5 議題

- (1) 令和4年度第2次春日井市民病院中期経営計画の事業報告について
- (2) その他

## 6 会議資料

- 資料1 春日井市民病院事業評価委員会名簿
- 資料2 春日井市民病院事業評価委員会規則
- 資料3 令和4年度第2次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

## 7 議事内容

### (1) 委嘱状及び辞令の交付について

院長から出席委員に対し、委嘱状及び辞令の交付を行った。

### (2) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長及び副会長の選出を行い、会長に林きよみ委員、副会長に稲垣一義委員が選出された。

### (3) 会議の公開等の確認について

会議は公開とし、議事録は「要点筆記」で作成し、会長及び副会長が確認・署名することを確認した。

### (4) 令和4年度第2次春日井市民病院中期経営計画の事業報告について

【橋本課長】 (資料3に基づき説明)

【安藤委員】 この資料はどのように公表されるのですか。

【橋本課長】 ホームページで公表しています。

【安藤委員】 公表されることを意識して絵や図が例年になく増えたので、資料全体の印象として、記載事項のイメージがしやすくなったと思います。個別の項目について、具体的にお話します。

11ページの「基本的取組1-2 高度専門医療の提供 重点取組、新棟の増築等」他について、項目の記載があれば、通常説明文が入るかと思われま。項目のみの記載でしたので、説明文が抜けているのか、削除し忘れたのかどちらでしょうか。事務局の説明では、一括して説明されていました。一つの項目にした方が、外部の方は見やすいと思います。

続いて、12ページの「基本的取組1-3 地域完結型医療の推進 2 退院支援の充実」について、さくらカウンターを平成30年4月から設置しているという説明があります。設置してから年数が経過しているので表現を改められたらいかがでしょうか。同様の記載が他にも見受けられます。

14ページの「6 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化」について、地域の医療機関と連携して情報を共有しやすくする仕組みですが、平成29年から実施していて、令和3年までに90件、5年間に毎年20件弱ずつ導入されたとこ

ろで、今回5件増えました。導入件数が伸びきってしまったか、伸びしろがあるのに増えていないのか、増やす方策がないのかどちらでしょうか。導入を進める対象範囲が明確ではありません。便利な仕組みであれば導入を進めていけばいいと思います。しかしながら、件数が伸び悩んでるように見受けられるので、積極的に導入するものではないという判断であれば、この数字で十分だと思われるのですが、どのような方向性で進められていますか。

続きまして、16ページの「基本的取組3-1 医療スタッフの確保・育成 3 勤務環境の改善」です。看護職員の人数が大きく減少しています。昨年の資料の同項目で、「令和3年7月から夕方・夜間の時間帯に、看護師の病棟業務の負担軽減を図るため、看護補助者の派遣を受けた。」という記載がありましたが、今回削除されていました。看護師の人数が減少したのに、その取組みをやめたのか、継続しているのかが分かりませんでした。現状いかがでしょうか。

最後に、19ページの「基本的取組3-2 効率的な病院経営の推進 4 経費削減」の材料費等の状況の表で、経費の削減を強調していますが、消耗品費が大きく増加しています。増加する理由としては、新棟の増築によって物品の購入量が増加したことは十分に予想がつくのですが、項目名と数値が、全く違う方向性なので、注記が本来必要ではないかと思いました。質問は以上です。

**【成瀬院長】** 重点項目の「新棟の増築等」の中の、新棟2階部分の小児アレルギーセンター、同3階部分のハイブリッド手術室の小項目となりますので、まとめるように記載を改めます。

**【橋本課長】** さくらカウンターは、継続して実施しているのですが、年数が経過していますので、記載を改めます。

**【渡辺局長】** Tri-net かすがいについては、地域の医療機関から紹介いただいた患者さんの検査状況等を紹介元であるクリニックがパソコンで見られるというシステムです。導入を推進していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で診療所訪問ができていませんでした。新型コロナウイルス感染症が5類感染症になってからは、訪問を徐々に増やしています。今年も、歯科医師会会員の医療機関についても導入を進めていくため、訪問しています。目標としては、今後も導入

医療機関を増やしていくことになります。

【成瀬院長】 医師会会員の Tri-net かすがい導入率は、年数を重ねていくうちに頭打ちになっています。パソコンが苦手な医療機関の先生もおみえになって、ファックスでやり取りしている医療機関もあります。本来は、全連携医療機関に導入されるべきだと考えます。全部というのは、180施設ほどです。目標としては、180施設になると思います。ご指摘のとおり、導入施設数しか記載がないので、指標を記載するなど表現方法を検討します。

【橋本課長】 16ページの夜間の看護補助者派遣ですが、令和3年度は、初めて導入した年だったので、特記事項として記載しました。当然に継続しておりますので、そのような記載ができればと思います。

【根岸局長】 やはり、看護補助者の派遣を受けないと厳しい状況が続いております。しっかり教育支援をして、力をつけていただく。今年からは、看護補助者に、何をどこまでできるかをマークするようになりまして、レベル1、2、3、4という段階で、看護師に分かるように示す取組みが始まっております。看護師と一緒に清潔のケアをしてもらったり、嚥下困難のない患者さんには、食事介助を一緒に行ったりという形で、活躍してもらっています。

【成瀬院長】 看護師数が減少している中で、看護補助者派遣の記述がないので、看護師の負担が増えてさらに辞めていくのではとのご指摘だと思います。

これは当院だけではなく全国的な問題で、例えば、当院と同規模の近隣の病院も1～2病棟閉鎖しており、医師よりも看護師の方が集まらないです。新型コロナを扱ってる病院は、やはり忙しい病院ですから、負担の少ない診療所などに転職する傾向があります。新しく救急病床を設置した大学病院では、かろうじて看護師を確保できたと聞いていまして、大きな問題だと思います。

【橋本課長】 19ページの部分ですが、ご指摘のとおり、令和4年度消耗品費が増えているのは、第2診療棟がオープンした関係で必要な備品等を購入したことなどによるものです。こちらの増加した理由を補足したいと思います。

【林会長】 事業評価委員会の委員を務めているので、つい厳しい視線

で見えてしまうのですが、一般の患者さんの中には、何かお気に召さないことがあると、春日井市民病院はよくないという評価をする方もいると思います。

私自身の経験でいえば、看護師が処置をしながら、私の方に顔を向けずに質問されました。いきなり質問されたので、私に聞いているかどうか全く分かりませんでした。これが受診の間に3回ありました。こちらに顔を向けて聞いてくれれば、看護師さんが優しく聞いてくれたという評価になりますし、顔をこちらに向けずに質問されたので、呆気にとられてしまいました。1回ならたまたまかなと思うのですが、3回もあって残念だと思いました。

その後、2人医師が来て、特に年配の医師から詳細に説明してもらえました。当然ながらその医師は私が薬剤師ということも全くご存じありません。一般の患者さんには、専門的で難しい説明と感じましたが、この場ではやむを得ないと思いました。たとえ一般の患者さんが気分を害されたとしても、医師はきちんと説明してくれたという様に受け止めてもらえれば大きな問題にはならないと思います。看護師のことを悪く言うわけではありませんが、丁寧な対応を心がけてもらいたいと感じました。不安に思ってる患者としては、心が傷ついたと感じたので、私自身も薬局での勤務で接遇に気を付けなければいけないと感じました。

スマートフォンアプリについて、病院の中でチラシを見かけました。アプリが使えるようになって便利になりました。待ってる間に、チラシがあれば、登録できたのにと感じましたので、普及に向けて広報に努めてください。

**【成瀬院長】** 接遇について、これは大きなテーマで、今回の事例は看護師でしたが、医師に関しても、接遇に関するご意見をたくさん頂いています。受付事務に関しても同様です。もちろん完璧は難しいのですが、患者さんの顔を見てお話するのは基本的なことです。病気を治しに来院いただいたのに、心に傷を作ってしまう大変申し訳ありませんでした。病院は、病気を治すところですから、真摯にご意見を受け止めたいと思います。言い訳になりますが、人間は忙しくなると、若干雑になってしまいます。救急の職員を見ていても、落ち着いている時と、そうでない時とでは、言葉遣いも違ってきます。しか

しながら、患者さんには関係ないことですので、どんな状況でも、丁寧に患者さんに接するのが基本だと考えています。

**【松浦課長】** アプリについては、皆さんに広く知っていただくことが、重要だと考えております。

ご指摘いただいたような意見も頂いており、会計のところで、周知をしています。特に午前中は、ご利用の呼びかけをしています。そのような取組みを積み重ねて、できる限り多くの皆さんにご利用いただければと考えています。

**【神戸委員】** 13ページの「基本的取組1-3 地域完結型医療の推進4 地域包括ケアシステムの構築支援」について、目標の2025年まで残り2年となりました。コロナ禍で地域の医療提供体制が大きく変わった中で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって医療・介護の顔の見える関係づくりの流れが止まってしまいました。これから行政として仕切直しをしていきたいと考えていますので、市民病院と連携して推進していきたいと思えます。

20ページの「基本的取組3-2 効率的な病院経営の推進6 病院広報の充実」について、ACP（アドバンスケアプランニング）啓発イベントを開催したとの記載があります。これから日本は多死社会を迎えます。このような中、病院だけで許容できる患者数には限界がありますので、在宅であったり、施設であったり、多くの患者を分担して受け入れていかなければなりません。どのような医療ケアを受けて最期を迎えたいのか、アドバンスケアプランニングの取組みが一層重要になってきますので、こちらも連携して推進できればと考えています。また、今回の病院新聞さくらの表紙が猫の写真で、非常に親しみやすく、挑戦的な取組みで素晴らしいと思えました。

**【成瀬院長】** 病院新聞さくらに関しては、以前から表紙の趣向を変えました。これは、広報委員会の事務局職員が考えて誰もが手に取りたくなるような病院新聞にしようということで、中身が大きく変わったわけではありませんが、表紙を変えるだけで、印象が変わったと思います。今後も皆様が手に取って見たくなるようなものにしたいと思っています。

**【後藤委員】** 看護職員の労働環境について、知人の娘が春日井市民病院で看護師として働いています。結婚後も病棟の夜勤をこなす

てきましたが、子どもが保育園児で、保育園に母親が送っていくと、行きたくないと言うことが最近増えてきたようです。祖母や父親がつれていくと何も言わずに行くのですが、夜勤をやめて、日勤の方に勤務形態を変えるという話を聞きました。若い女性看護師が、働きやすい環境を整えてほしいです。退職する方もいるようで、他の市民病院に勤務していた娘を持つ知人もいますが、結婚を機に退職したそうです。女性が子どもを産み育てやすい勤務環境を作っていくのが大事だと考えます。

また、未収金は大きな額になっています。

**【渡辺局長】** 未収金は前年度以前の分も含まれていますので、大きな金額になっています。未収金残高は年々減少していますが、病院として非常に苦勞しております。例えば、再診のときにお声がけをしたり、分納のご案内をしたり、内容証明郵便による督促も行っています。場合によっては、簡易裁判所への申立ても行い、懸命に回収に努めているところです。

**【成瀬院長】** 病院は、未払いの患者さんが来たからといって、病気を治療しないというわけにはいきません。病気の治療を進めつつ、未収金の回収もするということが、なかなか難しい問題です。未収金が0になるといいですけど、難しい点もあると思います。

看護師に関しては、看護局長が子育て中の職員には配慮しています。日勤帯の勤務はできますが、夜勤ができないという希望の方もいるのですが、かつては患者10人に対して1人でしたが、現在は7人に対して1人です。新型コロナウイルス感染症患者については、4人に対して1人。つまり、夜勤のできる看護師が減っていくと、病院の維持が難しくなります。日勤帯だけの勤務希望の看護師が増えていけば、病棟運営に支障を来します。夜勤専属の看護師を配置している病院もあるようですが、一長一短があります。ご指摘のように、働きやすい環境を作って、看護師を集めることが重要になると思います。

**【根岸局長】** 子育て中の職員を支えつつ、365日24時間患者さんを支えることが病院の使命ですので、夜勤をどのようにカバーしていくと、子育て中の看護師を支え得るのかを考えて、進めてまいります。

上記のとおり令和5年度春日井市民病院事業評価委員会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

令和6年1月19日

会長 林 きよみ  
副会長 箱 垣 一 義